

## ～今だからこそ～読むのにお薦めの本

学校がいつ再開するかわからない現状に不安やいらいらもあるでしょうが、こんなときだからこそ、普段だったら読めない読み応えのある本を読了することや苦手科目の克服、自分の進路を深く考える機会にしてもらえればと思い、いくつか本をご紹介します。

現在、学校図書館・県内公共図書館も臨時休館になっているので、書店で入手しやすい本を中心にしました。

**『夢をかなえる大学選び 令和時代に花咲く学び方』 船橋伸一・河村振一郎（著） 飛鳥新社  
1200円（税抜き）**

国立大学入試担当教授が大学入試の現場や入学後の大学生生活、そして就職について大学の内側から実例を挙げて説明しています。「就職場面での学歴フィルターの現実感」「出身大学によって年収は変わるか」「推薦入試合格者は一般入試合格者と差別されるか」などといった話題もあれば、各学校の学生支援制度、入試に向けてどんな学力をどのように強化していけばいいか。などの傾向と対策も載せてあります。家族で読んでもいい本です。

**『非進学校出身東大生が高校時代にしていたこと』 太田あや（著） 小学館 1300円（税抜き）**

11名の現役東大生が高校時代にどんな勉強・活動をしていたかが書かれています。インタビュー形式なので、読みやすく話者の気持ちが伝わってきます。「非進学校出身」とタイトルにあるように、学校内では極めて少ない東大受験生として孤独な戦いをどのようにやり遂げたのかは「東大受験生」でなくても共感できると思います。使った参考書や問題集が詳しく書かれていてこちらも是非チェックしてほしい。

**『AIに負けない子どもを育てる』 新井紀子（著） 東洋経済新聞社 1600円（税抜き）**

これは前作『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』で読解力の重要性を説いた著者が「では読解力とはどんなものを指すのか」に具体的に実例を挙げて説明している本です。

是非、この中にある28問の問題を試しにやってみてください。それぞれ短い設問なのですが、自分が「読む」ことにとっても集中していることに気づきます。

問題にはいくつかのパターンがあるのですが、苦手なものを認知して、上げる努力をすれば読解力は上昇するでしょう。ここで測られた読解力は偏差値に強い相関関係を持つとの事です。

**『企業研究者のための人生設計ガイド 進学・留学・就職から自己啓発・転職リストラ対策まで』  
鎌谷朝之（著） 講談社ブルーバックス 1000円（税抜き）**

我が校では進路先が文系よりも理系が多くなってきているようなのでご紹介します。理系進学者がすべて研究者志望ではないでしょうが、一つの選択肢としての企業研究者のリアルな生活が書かれている本です。ご存じのとおり、大学で研究を続けることが可能な人はわずか一握りです。となれば企業での研究者の働き方が気になりますね。企業研究者としての様々な経験話は自分の将来を具体的に考える良い材料になると思います。